

令和4年度EDU-Portシンポジウム「ポストコロナにおける学びの変容」

ラオス・ネパールにおける健康教育に関する 授業研究・健康診断活動の成果と課題 (ラオス・ネパール)

令和5年3月3日（金）全国都市会館2階 大ホール



Japan Consortium for Global School Health Research



信州大学教育学部 准教授
友川幸

SDGsに資する日本型学校保健の 課題と発展可能性の検証研究



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



ラオス国立大学教育学部



トリブバン大学



公立大学法人
神奈川県立保健福祉大学
Kanagawa University of Human Services



Gakugei 東京学芸大学
Tokyo Gakugei University



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY



中京大学
CHUKYO UNIVERSITY



帝京大学
Teikyo University

➤ プロジェクトの概要と今回の報告

【目的】

SDGsの実現やCOVID-19対策等の課題に対する日本型の学校保健の貢献の可能性と課題を実証的に検討すること

【主な活動】

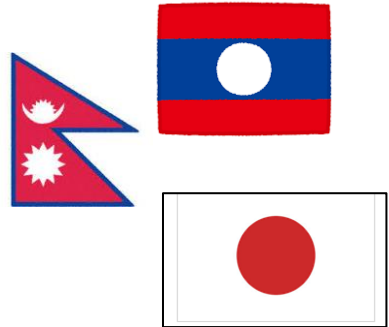
①	日本の開発途上諸国への学校保健支援の成果と課題の検証 (文献収集&聞き取り調査)
②	開発途上諸国での学校保健、COVID-19対策&ESDの現状把握 (文献収集&聞き取り調査)
③	開発途上諸国/日本での学校保健・ESD普及モデルの提案 (ラオス・ネパール・日本での保健教育教材の開発&授業研究、健康診断)
④	知見の共有、日本社会・学术界への還元(双方国での共有・論文化、ネットワーク構築)

- 活動現場で感じたコロナ禍による学びの変容
- Postコロナの学びの在り方についての意見
- 今後の展望、EDU-Port ニッポンへの期待等

- これまでの活動の成果

ラオス・ネパール・日本での保健教育教材の開発&授業研究（実証研究）

日本型の学校保健（保健教育） × 教員養成校と附属校の共同/連携 ×
健康問題をエントリーポイントとしたESDの推進の可能性を検証



●日本型の保健教育とは？

- ・主体的、対話的で深い学びを目指して構造化（導入・展開・まとめ）された授業
- ・授業研究（Lesson study）の手法の活用による授業指導力の向上

●教員養成校と附属校の共同/連携とは？ 教員養成校の教育&研究機能の強化！

- ・両機関の連携による授業（教材）開発と教員研修

●健康問題をエントリーポイントとしたESDとは？

- ・子ども達に身近で、かつ緊急性の高い健康問題を学習テーマに



➤ 実証研究のプロセス

①教材開発（日本×ラオス×ネパールの研究者＋現場経験のある教員）

- 1) 日本人研究者が教材案を作成 **☆メイントレーナーの養成**
- 2) 日本の教育現場での保健教育の実践経験のある教員との模擬授業&検討会
「主体的で、対話的で、深い学び」を意識した修正
- 3) 以下に関する3カ国での議論による教材修正と介入効果の評価方法の開発
 - a) 各国でのテーマに関する実践状況や設備等に関する現状と課題
 - b) 教材案に関する各国での特有事情の考慮
 - c) 教員養成機関で当該教育を実施する際に学生が身に付けるべき力（KAP）

ステップ1
2021-2022年
(オンライン)

②教員研修(教員養成校の教員)

評価(研修前後の質問紙調査/ メイントレーナーと授業者による授業評価)

②教員研修(中高の教員)

③小・中・高校(附属校)での実践

③教員養成校での実践

評価(教育前後の質問紙調査/ メイントレーナーと授業者による授業評価)

ステップ2
2022-2023年
(ラオス・
ネパール)

ステップ3
2022-2023年
(ラオス・ネ
パール・日本)

➤ ESD×日本型の保健教育：開発した教材(研修)の構成

事前調査（質問紙）

ESDの紹介/テーマとの関係性/獲得を目指す能力

授業構想の背景/目的/評価の観点

◎導入（日常性）：

学習者にとって身近な課題、疑問を持たせる、予想を立てる、自分事として考えさせる、明確な学習課題を提示

◎展開（科学性）：

学習者が主体的に学習、対話的で深い学び（共同活動を通して、個人の考えが更新される）、自己の課題を見つめる

◎まとめ（行動変容）：

学びの深まりを共有、学校・家庭で実践できる具体的な行動目標の確認

提案された授業の良い点、改善点を分析

テーマを指導する必要性、指導上の留意点を議論

事後調査（質問紙）

模擬授業
(小中校での
授業はこの
部分のみ)

➤ 開発した教育教材

カテゴリー	テーマ	教育手法	主な活動
COVID-19	差別	ニュース・記事などの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある差別事例を検討 ・差別経験者の手記を読んで議論
	メンタルヘルスマネジメント	風船によるストレス評価、お薦めストレス解消法ベスト3の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の普段のマネジメント方法の共有 ・調査研究から得られた情報の共有 ・個人のお勧めベスト3の選出
	ワクチン（予防接種）	免疫機能に関するロールプレイ	<ul style="list-style-type: none"> ・予防接種を実施した際に体内で生じる変化についてのロールプレイ
包括的性教育	月経教育	グループワーク（事例検討）	<ul style="list-style-type: none"> ・月経時に求められる支援を男女共同グループで議論
生活習慣病	栄養不良の二重負荷	計算（BMI/理想体重の計算）、図表の読み取り	<ul style="list-style-type: none"> ・痩せと肥満が健康に与える影響を紹介 ・身長・体重計測、BMIの計算
手洗い	啓発活動の企画	グループワークによる課題分析&啓発計画の企画（問題分析、ランク付け）	<ul style="list-style-type: none"> ・ナッジ理論の紹介 ・課題分析、啓発計画の企画

➤ 評価の観点(質問紙調査の内容)

K A P + 自信	授業を通して身に付けてほしい力 (小、中、高校生)	教員として身に付けてほしい力 (中高教員、教員養成機関学生)
知識	授業内容に関する知識	指導の際に配慮すべき点に関する知識
態度・意欲・関心	テーマに関する態度	テーマを学校現場で指導することについての態度、意欲、関心
実践	テーマに関する実践状況	テーマに関する学生への支援
自信	テーマに関する実践に対する自信	テーマに関する指導の自信

日本型教育で目指す学び

主体的	授業に積極的に参加したか	
対話的	教師－生徒間、生徒－生徒間のやり取りに参加したか	
深い学び	教師－生徒間、生徒間の対話を通して自分の考えが更新されたり、新たな発見があったか	

ESDの視点にたった学習指導で重視する7つの能力・態度

1. 批判的に考える力
2. 未来像を予測して計画を立てる力
3. 多面的・総合的に考える力
4. コミュニケーションを行う力
5. 他者と協力する力
6. つながりを尊重する態度
7. 進んで参加する態度

➤ 開発された教材（手洗い啓発）

授業のねらい		日本や世界で行われている手洗い普及運動の実践事例を参考に、手洗いを促すための手洗い啓発活動の企画を具体的に考えることができる。
学習内容	導入	新型コロナ感染症対策における「手洗い」の重要性の紹介
		ナッジ理論の紹介とその実践例の紹介
	展開	グループワークによる手洗いに関するアクションプランの作成
	まとめ	プラン発表
ESDの視点にたった学習指導で重視する7つの能力・態度		<ol style="list-style-type: none"> 1. 批判的に考える力 2. 未来像を予測して計画を立てる力 3. 多面的・総合的に考える力 4. コミュニケーションを行う力 5. 他者と協力する力 6. つながりを尊重する態度 7. 進んで参加する態度
		文部科学省HP: https://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm

➤ 日本・ラオス・ネパールとの共同での教材開発からの学び

教材開発での議論から→都市部と農村部で水資源へのアクセスが異なることが指摘
➡ラオス・ネパールの水衛生設備の現状に合わせ、水が手に入りにくい地域における手洗い啓発活動の具体例の内容を追加

Other examples of practices for promoting handwashing at school

What can we do if there is little water for handwashing at school?

- Making the “Tippy-tap”

Tippy-Tap is a device for washing hands under running water, using products available locally.



- Using a **Kettle** for washing hands
- Having a campaign to **bring water** for handwashing **from home**



Author: INOUT Resident



Tippy-Tapの導入、やかんを使った手洗いなど、少量の水でも手洗いが実施できるような具体例を追加

➤ ラオスの教員研修の効果と課題から

(n=50)	研修前		研修後		P値
	平均	SD	平均	SD	
①手洗いに関する知識 (7点満点)	3.6	1.3	4.6	1.2	<0.001
②手洗い啓発の指導の際に配慮すべき点についての知識(17点満点)	4.3	2.9	4.5	3.2	0.819
③手洗い啓発を指導することについての意欲、関心等(45点満点)	34.7	4.9	37.4	5.0	<0.001
④手洗い啓発を指導することについての態度 (40点満点)	37.7	4.0	38.6	2.2	0.17
⑤手洗い啓発を指導する必要性についての認識 (24点満点)	20.5	2.6	21.9	1.8	<0.001
⑥手洗い啓発を指導する自信 (24点満点)	18.7	3.5	21.0	2.4	<0.001

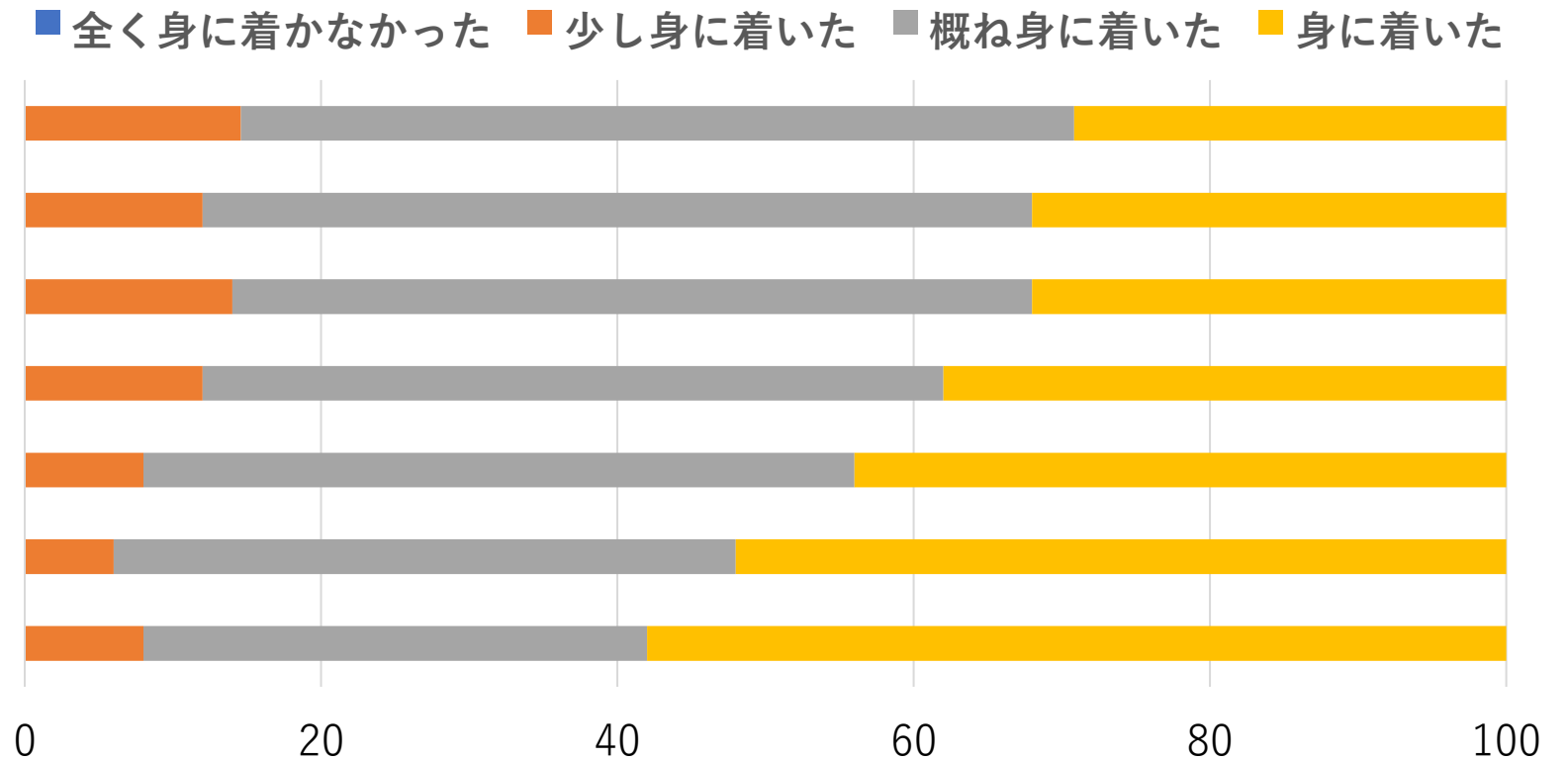
①手洗いに関する知識、③指導の意欲や関心、⑤指導の必要性、⑥指導の自信の4項目が有意に向上。

②指導の際に配慮すべきポイントに関する知識については、十分な習得が認められなかった、手洗いに関する内容理解にも課題。

➤ ESDの指導で重視する能力・態度の獲得についての自己評価

- 1.批判的に考える力
- 2.未来像を予測して計画を立てる力
- 3.多面的・総合的に考える力
- 4.コミュニケーションを行う力
- 5.他者と協力する力

- 6.つながりを尊重する態度
- 7.進んで参加する態度



開発時に想定した能力・態度 < 想定していなかった能力・態度

➤ ラオスでの教員研修の観察から（手洗い啓発）

By painting footsteps and arrows, students started to wash their hands by guiding them from the toilet to the handwashing facility.



Dreibelbis R et al. (2016)

It's important to think **why** people change their behavior and **how** you can change people's behavior!

ナッジ理論やその活用の具体例について紹介

- 計画された啓発活動にはナッジの視点なし
→ナッジ理論についてのさらなる理解が必要

Today's Activity:

Let's think of a plan for students to wash their hands with soap.

How to proceed with the planning

WHO	Think <u>who is the target of your plan.</u>
WHY	Think <u>why they do not wash their hands.</u>
WHAT/ HOW	<ul style="list-style-type: none">• Based on "why" (causes of the behavior), let's think "what" can make the target person wash their hands with soap.• Let's think about "what" and how to implement it.
WHERE	Let's think about where to implement the plan.

How can we get people to wash their hands??



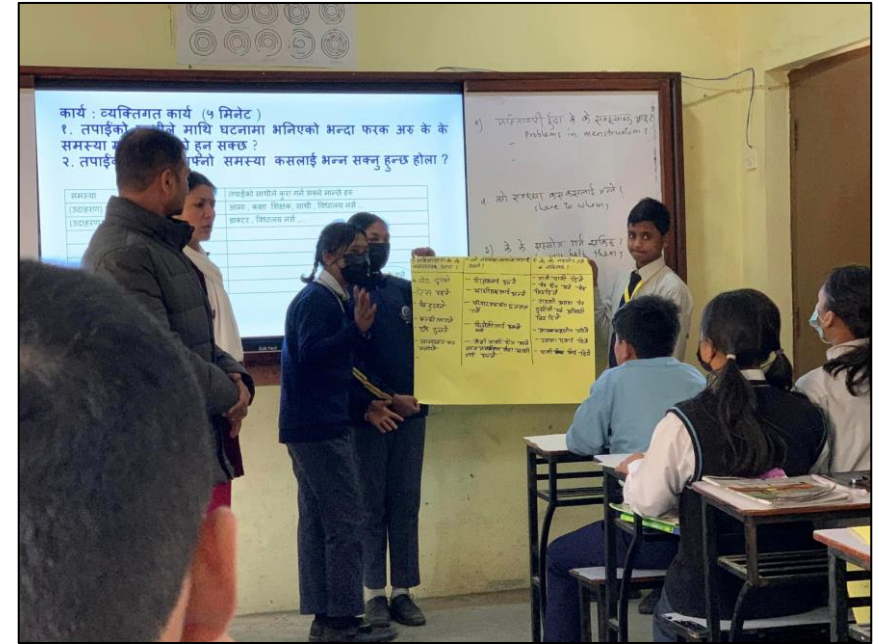
各グループでの啓発活動の企画

- 計画された活動は、現状の課題の分析結果とはマッチしていなかった。
願望・希望を並べただけの内容

→課題分析－解決法の理解、優先順位付けが必要

★発表に対する教師の適切なコメントも必要

➤ ネパール/ラオスでの実践の観察から（月経教育：中学１年生）



男女共修により、月経時に起こる心身の問題とその際の支援の方法をグループで相談

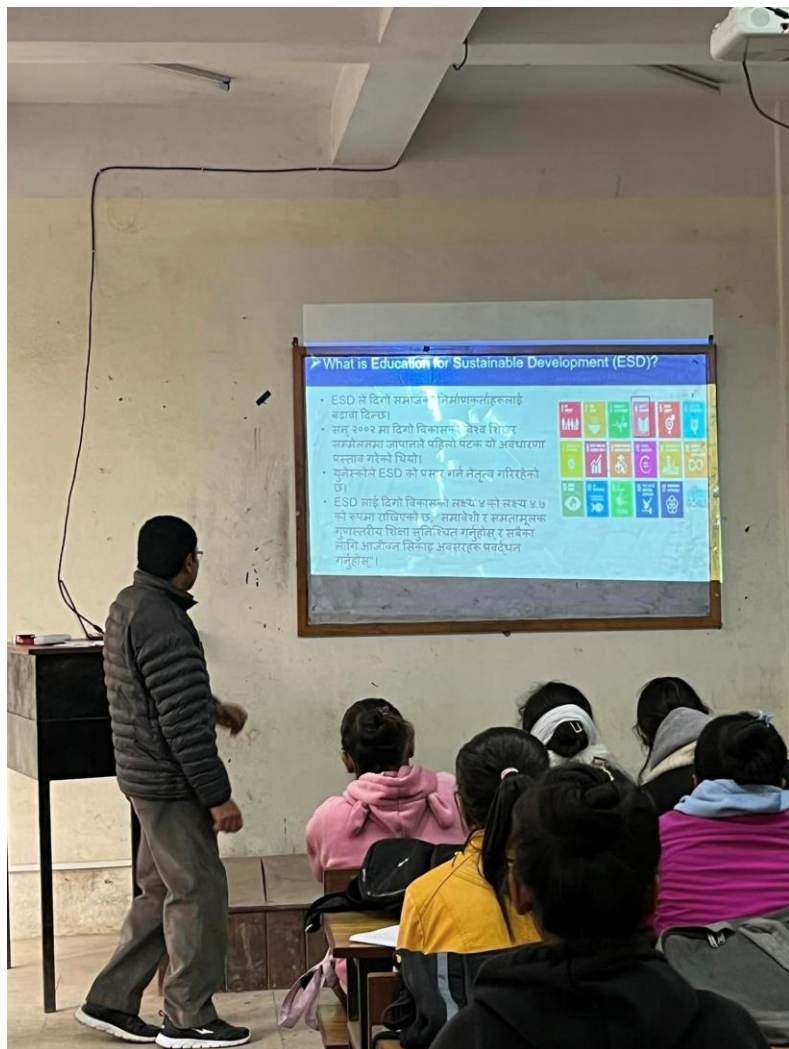
●当初の想像以上に男女がうまく共修。

●できる支援とできない支援が混在

→優先順位付けが必要

●活動の指示・グループ編成・時間管理の問題¹⁴

➤ ネパール/ラオスでの実践から（ESDの紹介：教員養成校）



●冒頭のESDの紹介に30分超（3～5分程度の想定）

→各パートでの時間配分を徹底

☆☆☆独自でスライドを追加して、教育学部全体での集会で副学部長が紹介（ラオス）

➤ ESD×日本型の保健教育：開発した教材(研修)の課題と成果

日本・ラオス・ネパールの3カ国での実践比較により、、、

課題	成果
全体的な説明スリム化、適切な時間配分、各スライドで説明すべき内容の追加 →指導の質を担保するための標準化	授業のボトルネックの顕在化 (準備不足、内容の理解の不足 <u>教えるべき内容の精選</u>)
現状分析に基づく対策提案、優先順位をつける視点の追加	ESD、各国が求める能力強化に最適! →ESD推進に前向き
授業研究とは何か?何のための授業研究か?の説明の追加	各国の授業・教育観が浮き彫り (文化的な背景も影響)
グループワーク及び発表時のファシリテーション技術の向上の必要性 (発言の一極集中への対策も)	教師の本質的な教授力・役割とは何かを考えるきっかけ(授業は筋書きのないドラマ)

➤ 活動現場で感じたコロナ禍による学びの変容

ラオス（ビエンチャン、ルアンパバーン、ドンカムサン、バンクーン 小、中、高校の校長）約30校での聞き取り調査

	プラスの影響	マイナスの影響
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習環境の劇的な改善 ・教師、子どもともに予防接種が徹底 ・学校運営委員会と校長のマネジメント力が強化/格差（ネット使用、ガソリン代、宿題配布等） ☆感染症対策に対する関心&意欲上昇 ☆子どもの健康の重要性の再認識 ☆石鹸、マスク、体温測定計が郡から支給 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が患者の受け入れ場所（都市部では教員の感染多数） ・学校経営に甚大な影響（2022年授業料徴収無） ・感染症対策以外の学校保健活動は一時的に停止
教師	<ul style="list-style-type: none"> ・農村部では副業増 	<ul style="list-style-type: none"> ・分散登校による授業数増、科目の選択指導、 ・オンライン授業準備対応による負担増 ・自給自足者は影響少、現金収入激減（観光地）
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルスは良好、肥満・虐待等の発生なし ・学習意欲は増（小学校）/学びの場としての学校の重要性の再認識 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済苦による退学者増（観光地の中高校） ・教育格差大、特に地方では中高は進学に影響 ・大学は入学者の大幅減

コロナ＋ウクライナ危機による影響大→ガソリン高、物価高

➤ 活動現場で感じたコロナ禍による学びの変容

ネパール 中央及び地方行政機関での聞き取り調査（約20人）

	プラスの影響	マイナスの影響
学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインによる授業実施/ネット環境の劇的改善 ・ 教員研修センターは3,000以上のオンライン学習プログラムを開発（ラジオ・テレビ・Youtubeで放映） ・ 手洗いや基礎衛生に対する優先順位が向上 ・ 改訂予定の教科書で感染症の記載が強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策以外の他の学校保健活動の停止 ・ 学校が感染者の隔離場所として使用。感染リスク回避のため子どもを学校に行かせない ・ 学校閉鎖時の無料配布の生理用品管理 ・ ピア学習の機会の喪失
教師		<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立教員は失職の危機（メンタルヘルスにも影響）
子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの衛生習慣が向上（特に石鹼による手洗い） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット・スマホ依存 ・ 子どもの孤独感・ストレス増大、身体活動の低下、他とのコミュニケーションの機会の激減 ・ 学校/学習への興味減、学力低下（読み書き）

▶ 日本での実践から（附属小学校：メンタルヘルス/月経教育）



1人1台端末を活用した保健授業

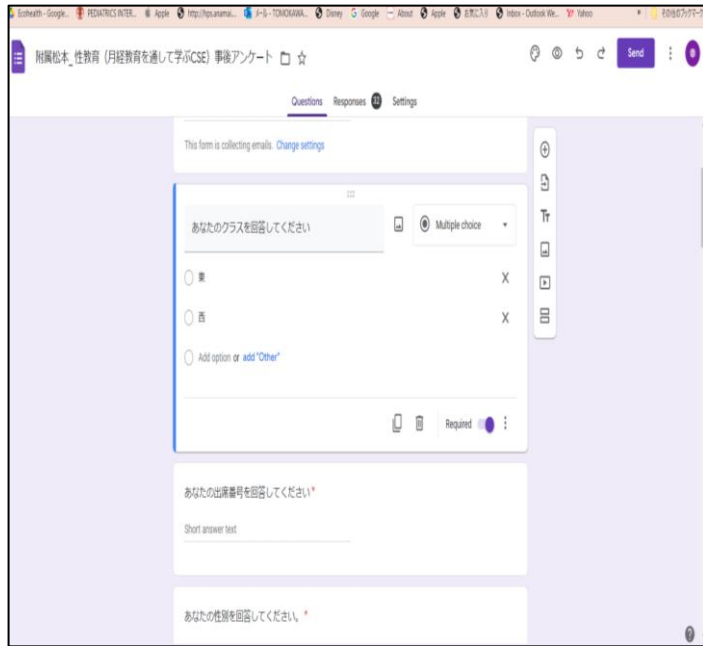
	A	B	C	D	E	F
1		生理中のAさんにどんなことをしてあげられるかな？ 書記さんは班の人の意見をまとめて記入しよう。				
2	1班	そっとしておいてあげるか、話しかける。保健室に連れて行く				
3	2班	そっとする。・静かにする・体調を気にする・保健室に行くか聞く				
4	3班	そっとしておく。はげます。うるさくしないでおく。人目を避けてトイレに行ったのだから、生理が恥ずかしいのかもしれないから、生理には触れないようにしてそっと声をかける。				
5	4班	いつも通りに接してあげる。静かにしてあげる。体育授業のときに優しい言葉をかけてあげる。温かいものをあげる。体調を気遣ってあげる。距離感を感じさせない程度に、関わらない。				
6	5班	そっとしておくか、さり気なく気を使う。				

Google スプレッドシートを活用したグループワーク

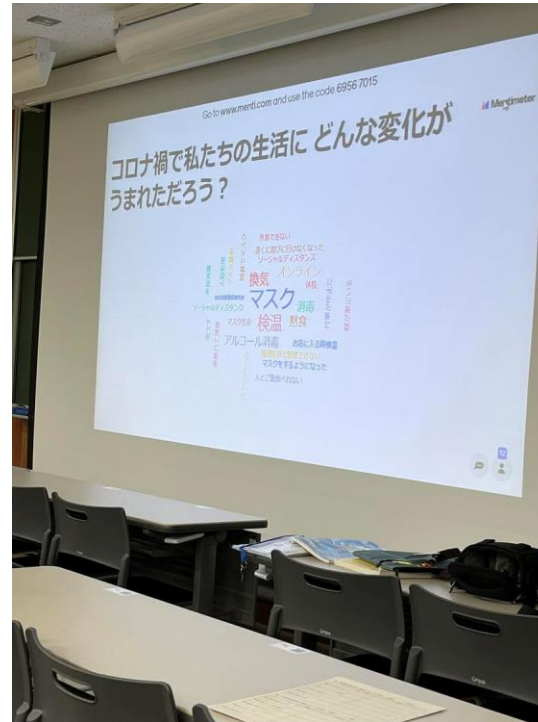


保健教育への保護者の参加

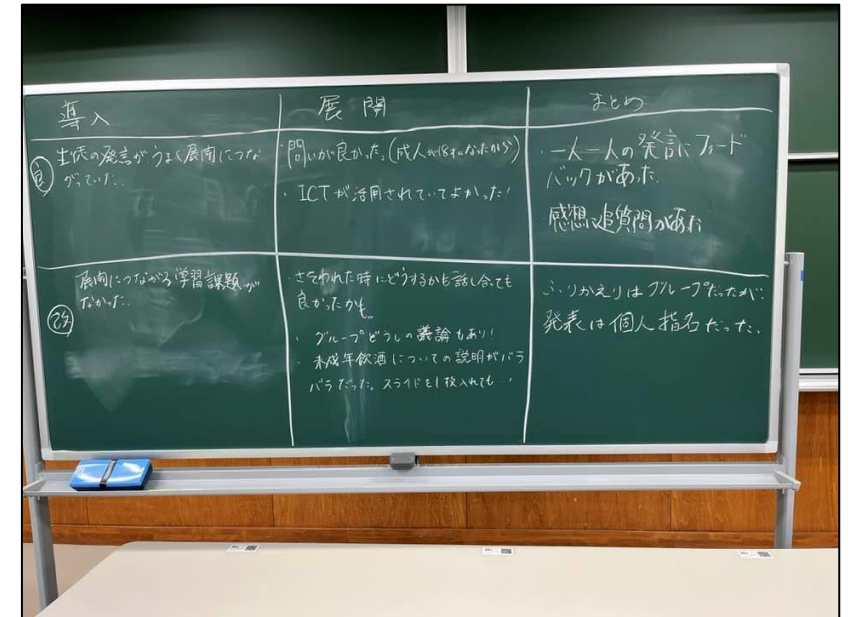
➤ 日本での実践から (教員養成校)



Google フォーム活用した教育評価
実態調査 & ニーズ調査



ICTを用いた保健授業づくり
(メンチメーターの活用)



模擬授業 & リフレクションによる
保健教育の指導力の向上

➤ 2021-2022年の主な研究業績・日本の国際化・対象国の親日化

- 研究業績: 学校保健学会、国際保健医療学会、長野体育学会など 合計8本の研究報告
- 国内実践・報告会: 長野県教育研究集会、教員認定講習、信州大学大学院、学部授業、附属小学校、長野市内の小学校
- ラオスでの大学生のスタディツアー 2022年9月に1カ月間(6名)、2022年12月~1月に17日間(8名) 計14名
合計40以上の学校での健康診断活動、運動指導(縄跳び)、健康教育を体験。

【活動参加者】 日本人教員: 20名以上 ラオス人教員: 500名以上 ラオスの教員養成機関の学生: 200名以上
計測した子ども達: 合計で1万1千人



中学校での健康診断の意義についての指導



クラスベースでの健康診断システムの開発

➤ 今後の展望、EDU-Portニッポンへの期待

	ラオス	ネパール
学校	オンラインを活用した学校保健モニタリング & スーパーバイズ、データ管理の支援の希望 (DX×学校運営×学校保健)	学校保健の重要性の再認識 実践と研究強化のための支援を希望 (ESD×保健教育→教育の質的向上)
教師		ICTを活用した指導技術向上に対する支援(保健教育×ICT)
子ども	子どもの肥満と痩せ、メンタルヘルス等に対する教育支援の希望 (健康診断活動×健康的な食品×健康機器)	
研究者	実証研究&アクションリサーチに関する研究力の向上→ <u>学術論文による発信・研究者ネットワークの強化、一般：メディア・SNS活用</u> 授業研究の視察(本邦研修) <u>※日本の教育再考・向上に貢献！ 探究学習×国際協力(健康&環境)</u>	

ご清聴ありがとうございました